

南アフリカ共和国

Republic of South Africa

	2007年	2008年	2009年
①人口:4,932万人 (2009年央,推計値)			
②面積:122万1,037k㎡			
③1人当たりGDP:5,824米ドル (2009年)			
⑤貿易収支(ランド)	△405億3,100万	△355億5,900万	22億7,100万
⑥経常収支(ランド)	△1,445億5,300万	△1,616億7,500万	△965億7,300万
⑦外貨準備高(米ドル)	295億8,860万	305億8,350万	352億3,740万
⑧対外債務残高(米ドル)	752億7,500万	718億1,100万	759億4,900万*
⑨為替レート(1米ドルにつき, ランド,期中平均)	7.05	8.26	8.47

[注] *9月末時点。

[出所] ①④:南アフリカ統計局, ②南アフリカ政府, ③⑦⑨:IMF, ⑤⑥⑧:南アフリカ準備銀行

2009年の南アフリカ共和国の実質GDP成長率は、1992年以来初のマイナス成長となった。2008年に伸びが鈍化していた家計最終消費支出がさらに落ち込んだことが最大の要因だ。貿易では世界経済の不振および国内消費の縮小の影響により輸出入ともに減少した。投資では対内外ともに大型案件はなかったものの、南アフリカ企業による新興国市場への活発な投資がみられた。

■家計消費の低迷でマイナス成長に

2009年の実質GDP成長率はマイナス1.8%となった。家計最終消費支出が前年比3.1%減と落ち込み、特に耐久消費財が11.3%減と大幅に減った。新車乗用車の2009年販売台数は21.6%減の約26万台と、ピーク時の2006年(約48万台)から半減した。総固定資本形成(2.3%増)では、電力関連の設備投資が好調だったことと、2010年サッカー・ワールドカップ開催に向けたインフラ整備が進んだことで、電力・ガス・水道、建設業、運輸・倉庫・通信業が伸び、公営企業が40.7%増となった。一方、自動車生産を中心とした製造業が不振となり民間企業は7.0%減となった。

産業別では、製造業と鉱業が特に落ち込んだ。製造業(10.7%減)は国内外の需要が縮小したため、設備稼働率が78.1%と、前年の83.8%から大きく下がった。特に自動車産業は、世界全体の自動車需要が減退した影響を受けた。主要自動車メーカーの生産・輸出拠点が置かれた南アフリカは、世界の自動車産業のサプライチェーンに組み込まれているためだ。鉱業はダイヤモンドや金の生産が落ち込んだことが響き、1974年以来最大の下げ幅と

なる7.2%減を記録した。

■中国が輸出相手国1位に浮上

南アフリカ歳入庁によると2009年の貿易(通関ベース)は、輸出が前年比21.8%減の5,116億2,936万ランド、輸入は27.9%減の5,420億9,044万ランドで、貿易収支は304億6,108万ランドの赤字となった。世界経済が落ち込んだ影響で欧米諸国との貿易が軒並み縮小するなか、輸出が順調に伸び、輸入の減少幅が相対的に小さかった中国が、輸出入ともに最大の貿易相手国となった。

輸出を品目別にみると、全体の4分の1を占める貴石・貴金属等が前年比15.3%減となった。世界的な自動車需要の縮小に伴い、自動車排ガス浄化触媒として使われるプラチナが29.0%減となったことが響いた。全体の2割を占める鉱物性生産品(15.0%減)では、石炭が9.1%減となったが、鉄鉱石は34.7%増となった。

全体の約1割を占める一般機械・電気機械(31.6%減)では、触媒を含む排ガス用の清浄機(46.1%減)や半導体デバイス(20.5%減)が減少した。同じく全体の約1割を占める輸送機器(32.3%減)においては、乗用車が

表1 南アフリカ共和国の主要品目別輸出入<通関ベース>

(単位:100万ランド,%)

	輸出 (FOB)				輸入 (FOB)			
	2008年	2009年			2008年	2009年		
	金額	金額	構成比	伸び率	金額	金額	構成比	伸び率
動植物生産品・食料品類	47,556.8	47,836.7	9.3	0.6	39,269.8	36,396.3	6.7	△ 7.3
鉱物性生産品	120,770.7	102,618.8	20.1	△ 15.0	172,622.0	118,519.7	21.9	△ 31.3
化学品	40,724.8	29,360.9	5.7	△ 27.9	64,703.3	50,595.3	9.3	△ 21.8
貴石・貴金属等	152,799.7	129,414.2	25.3	△ 15.3	32,919.3	4,956.6	0.9	△ 84.9
卑金属・同製品	114,555.8	74,135.5	14.5	△ 35.3	36,107.5	23,602.8	4.4	△ 34.6
一般機械・電気機械	64,778.4	44,339.0	8.7	△ 31.6	186,156.5	142,061.2	26.2	△ 23.7
輸送機器	67,837.1	45,894.7	9.0	△ 32.3	71,261.2	48,479.9	8.9	△ 32.0
自動車国内生産のための部品輸入	-	-	-	-	48,155.5	29,462.4	5.4	△ 38.8
合計(その他含む)	654,319.1	511,629.4	100.0	△ 21.8	752,012.9	542,090.4	100.0	△ 27.9

[出所] 表2とも、南アフリカ歳入庁。

表2 南アフリカ共和国の主要国別輸出入<通関ベース>

(単位:100万ランド, %)

	輸出 (FOB)					輸入 (FOB)			
	2008年		2009年			2008年		2009年	
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
中国	35,243.5	47,721.9	9.3	35.4	中国	82,436.1	70,818.2	13.1	△ 14.1
米国	65,560.4	41,468.2	8.1	△ 36.7	ドイツ	82,448.0	63,244.3	11.7	△ 23.3
日本	66,399.9	34,474.8	6.7	△ 48.1	米国	59,811.9	41,543.7	7.7	△ 30.5
ドイツ	47,425.1	31,464.7	6.1	△ 33.7	サウジアラビア	45,945.3	27,250.9	5.0	△ 40.7
英国	40,091.9	25,265.4	4.9	△ 37.0	日本	40,619.0	26,312.5	4.9	△ 35.2
スイス	13,035.8	21,505.8	4.2	65.0	イラン	27,374.3	22,109.5	4.1	△ 19.2
オランダ	28,340.1	17,508.1	3.4	△ 38.2	英国	34,519.4	21,431.7	4.0	△ 37.9
インド	18,640.2	17,402.3	3.4	△ 6.6	フランス	20,778.1	16,931.6	3.1	△ 18.5
ジンバブエ	13,809.0	13,533.4	2.6	△ 2.0	ナイジェリア	15,743.7	15,641.7	2.9	△ 0.6
モザンビーク	13,150.5	13,521.5	2.6	2.8	インド	18,815.9	15,408.0	2.8	△ 18.1
ザンビア	16,068.6	11,916.7	2.3	△ 25.8	イタリア	17,750.5	13,678.0	2.5	△ 22.9
合計(その他含む)	654,319.1	511,629.4	100.0	△ 21.8	合計(その他含む)	752,012.9	542,090.4	100.0	△ 27.9

30.5%減、貨物自動車は45.2%減、自動車部品が26.6%減と、世界的な自動車需要の縮小が大きく影響した。

輸出を国・地域別にみると、従来からの主要な貿易相手先であるEU27、日本、米国などの先進諸国のシェアが落ちた一方で、中国やインドなどの新興国のシェアが高まった。

先進諸国向けの輸出の落ち込みは、資源に加え、自動車・同部品を中心とする工業製品に対する需要が各国で減退したことが主因である。

輸出全体の約4分の1を占めるEU向けは36.4%減となった。プラチナを中心とする貴石・貴金属等(32.3%減)、石炭を中心とする鉱物性燃料(29.7%減)のほか、一般機械(49.8%減)が大幅に減少した。EUの中で最大相手国のドイツ(33.7%減)では、触媒を含む排ガス用の清浄機(43.5%減)、ディーゼルエンジンおよびセミディーゼルエンジン(62.9%減)などの自動車関連部品を中心に、全体の20.5%を占める一般機械(47.7%減)が大幅減となった。その一方で、全体の16.6%を占める輸送機器は、フォルクスワーゲンのポロ、BMWの3シリーズなどの乗用車の輸出が伸び、31.4%増となった。英国向けは、全体の45.0%を占める貴石・貴金属等(29.6%減)が、プラチナ(29.0%減)やダイヤモンド(28.7%減)を中心に減少した。

輸出相手国2位の米国においては、乗用車が8.0%減、プラチナが57.0%減と主要品目が振るわず、全体で36.7%減となった。また、2008年に最大の輸出相手国だった日本は、2009年に輸出額がほぼ半減(48.1%減)し、3位に後退した。全体の52.9%を占める貴石・貴金属等が、プラチナ(45.0%減)を中心に減少に転じ、45.0%減となったことが大きな要因だ。

これら先進諸国とは対照的に、中国やインドなどの新興国は、輸出におけるシェアを順調に伸ばした。輸出品目は、主に資源が中心であった。

中国向けの輸出が前年比35.4%増と大きく伸びた結果、2008年の輸出相手国5位から1位に浮上した。最大の構成目となったのは鉄鉱石・スラグおよび灰(構成比60.4%、前年比41.8%増)で、中でも輸出全体の42.2%を占める鉄鉱石は156.9%増となった。鉄鉱石の輸出で対中国が占める割合は、2007年に37.1%、2008年に42.6%、2009年に76.3%と年ごとに高まっている。また、全体の13.0%を占めるフェオアロイ(93.8%増)を中心に、鉄鋼(67.9%増)も大幅に増加した。

対インドでも資源の輸出が拡大した。全体では前年比6.6%減だったものの、輸出の57.6%を占める石炭は94.5%増とほぼ倍増した。南アフリカの石炭は、環境規制によってEU向けの輸出割合が2007年の62.0%から2009年には39.7%に低下する一方で、インド向けは2007年の12.6%から2009年には28.3%と拡大している。

先進国の中では例外的に、スイス向けの輸出が伸びた。これは全体の88.1%を占める貴石・貴金属等が、プラチナを中心に増加し65.0%増となったためだ。

なお、サブサハラアフリカ地域向けの輸出は前年比13.6%減となった。域内の最大輸出相手国ジンバブエは2.0%減、次ぐモザンビークは2.8%増で、ほぼ横ばいで推移した。一方、2008年は域内最大の輸出相手国であったザンビアは、最大品目の軽質油・同調製品を中心とする石油・同調製品(61.8%減)が落ち込んだことを受け、全体で25.8%減となり、域内3位に後退した。ケニア(26.5%増)は、天候不順に伴う穀物類の国内生産減を受け、メイズの輸出が4.5倍に増加したことが影響し、域内4位に浮上した。

■輸入は軒並み減少

輸入は、国内需要の低迷を受け、主要品目の一般機械・電気機械、鉱物性生産品、化学品が減ったほか、世界の自動車産業の不振の影響を受け輸送機器も減少した。

全体の 26.2%を占める一般機械・電気機械は、23.7%減となった。近年好調だった携帯電話を中心とする電話機(18.0%減)や自動データ処理機・同部品(16.8%減)、自走式ブルドーザー、メカニカル・ショベルなどの建設機械(66.3%減)が減少した。例外的に、発電設備用の蒸気タービン(120.5%増)は大型の新規火力発電所の建設に伴い、前年に引き続き高い伸びを示した。

鉱物性生産品では、全体の 16.2%を占める原油が数量ベースでは 18.9%増となったものの、油価の下落により金額ベースでは 29.6%減となった。

輸送機器では、乗用車(13.1%減)、自動車部品(18.7%減)のほか、貨物自動車(65.1%減)、トラクター(36.1%減)なども大幅に減少した。

国・地域別にみると、EU(25.0%減)、中国(14.1%減)や日本(35.2%減)をはじめとしたアジア諸国、南部アフリカ開発共同体(SADC, 44.7%減)などのサブサハラアフリカ諸国、米国(30.5%減)など、いずれも大幅に減少した。

全体の 3 分の 1 を占める EU では、全 27 カ国中、3 カ国を除くすべての構成国で軒並み減少した。EU 域内で最大の輸入相手国であるドイツ(23.3%減)は、一般機械のうち蒸気タービン(158.7%増)や飲食料品の製造業用機械(186.6%増)の輸入が増加したものの、一般機械全体は 28.0%減となった。輸送機器では乗用車(4.2%増)が微増したが、自動車部品(18.2%減)は減少した。

ドイツを抜いて最大の輸入相手国となり、13.1%のシェアを獲得した中国だが、輸入額は減少に転じた。携帯電話を中心とする電話機(10.3%減)や自動データ処理機・同部品(11.9%減)など、一般機械・電気機械(17.3%減)の減少が目立った。

3 位の米国でも、携帯電話を中心とする電話機(36.5%減)、建設機械の部分品(28.9%減)、自走式ブルドーザー(56.4%減)など、一般機械・電気機械(29.1%減)の主要品目が落ち込んだ

中東のサウジアラビア(40.7%減)やイラン(19.2%減)、サブサハラアフリカのナイジェリア(0.6%減)やアンゴラ(47.8%減)などの産油国からの輸入も減少した。主要輸入品目である原油は、数量ベースでは各国で増加したものの、国際価格が低下したことを受け、輸入額の減少につながった。

表 3 南アフリカ共和国の対内・対外直接投資の推移
＜国際収支ベース＞

	ネット、フロー			残高
	2007 年	2008 年	2009 年	2008 年末
対内直接投資額	40,120	74,403	48,270	632,619
対外直接投資額	20,896	△ 25,888	13,425	463,143

〔出所〕南アフリカ準備銀行「四季報」2010 年 3 月号。

■南アフリカ企業が新興市場を開拓

南アフリカ準備銀行によると、2009 年の対内直接投資(国際収支ベース、ネット、フロー)は前年比 35.1%減の 482 億 7,000 万ランドとなった。対外直接投資(同)は前年のマイナス 258 億 8,800 万ランドから、134 億 2,500 万ランドとなった。

対内直接投資は、世界的な景気減速の影響で減少したが、国内の医薬品市場の拡大を見越した製薬会社による投資の動きが目立った。主な案件としては、2009 年 11 月に英国のグラクソ・スミスクライン(GSK)によるアフリカ最大の製薬会社アスペンの追加株式取得(34 億 7,000 万ランド)があった。この取引はアスペンによる GSK のドイツ製造施設の所有権および南アフリカ国内における特定医薬品の販売権と引き換えだった。GSK はこのほか株式 3% を市場で調達し、合計で 19%のアスペンの株式を取得した。ほかにも、2008 年に医薬製造会社シメイラの株式 70%を取得していたインドの医薬品大手ザイダス・グループは、2009 年 12 月に残り 30%(金額非公開)を追加取得して同社を買収した。

鉱山・金属分野では、2009 年 5 月にフィンランドのフェロクロム生産者のルキがモハレ・アロイズの株式 84.9%(20 億ランド)を取得した。11 月にカナダのファースト・カンタム・ミネラルズが、ザンビアで銅、ニッケルなどの探査・開発を進めるキワラの全発行株式(19 億 4,500 万ランド)を取得して買収した。

最新の対内直接投資残高(2008 年末時点)は、6,326 億 1,900 万ランド(前年比 15.9%減)となった。国別では、英国(3,424 億 7,200 万ランド、34.7%減)が減ったものの、投資残高の半分以上を単独で占めている。次いで、米国(471 億 6,600 万ランド、1.8%増)、ドイツ(469 億 6,000 万ランド、13.6%増)、オランダ(322 億 2,400 万ランド、11.3%増)、スイス(292 億 3,500 万ランド、37.0%増)と続く。分野別では、鉱業(1,953 億 6,500 万ランド、41.2%減)が減った一方で、製造業(2,047 億 5,400 万ランド、3.9%増)と金融・保険・不動産等(1,824 億 2,000 万ランド、2.2%増)が堅調に推移した。

一方、対外直接投資では、東欧・ロシアや中南米など新興国市場への投資案件が目立った。2009 年 3 月にスタンダード銀行がロシア最大の投資会社トロイカ・ダイアログ・グループの株式 33%(30 億ランド)を取得した後、8 月にはビッドベスト・グループが中東欧市場への足がかりとして、チェコの食品サービス会社ノワコとポーランドのファルテックスを買収(28 億ランド)した。メディア最大手ナスパズは、9 月にブラジルの電子商取引会社であるブスカ・ペ・コム(25 億 5,000 万ランド)を取得。同社は 12 月にもロシアのインターネット会社メール・ルー

表4 日本の対南アフリカ共和国主要品目別輸出入<通関ベース>

(単位:100万ドル,%)

	輸出 (FOB)					輸入 (CIF)			
	2008年		2009年			2008年		2009年	
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
工業製品	4,495	2,534	97.0	△ 43.6	食料品, 動植物生産品	189	190	3.8	0.6
化学品	113	94	3.6	△ 16.9	原料品	2,525	1,490	29.9	△ 41.0
機械機器	4,003	2,165	82.9	△ 45.9	金属原料	2,031	1,157	23.2	△ 43.0
一般機械	1,258	622	23.8	△ 50.6	鉄鉱	698	459	9.2	△ 34.2
車両用ガソリンエンジン(1000cc超)	355	212	8.1	△ 40.5	フェロクロム(炭素含有量4%超)	671	338	6.8	△ 49.7
車両用ディーゼルエンジン	159	86	3.3	△ 45.7	マンガン鉱・鉄マンガン鉱(含む精鉱)	295	203	4.1	△ 31.3
電気機械	335	198	7.6	△ 40.9	木材, コルク	419	282	5.7	△ 32.7
輸送機器	2,325	1,286	49.2	△ 44.7	工業製品	6,117	3,231	64.8	△ 47.2
乗用車	795	524	20.0	△ 34.1	化学品	170	97	1.9	△ 43.0
貨物自動車	622	278	10.7	△ 55.2	機械機器	640	326	6.5	△ 49.1
精密機器	85	59	2.2	△ 30.7	輸送機器	599	276	5.5	△ 53.8
金属品	104	95	3.6	△ 8.3	金属品	5,283	2,782	55.8	△ 47.4
					非鉄金属	5,281	2,775	55.6	△ 47.5
合計	4,598	2,613	100.0	△ 43.2	合計	8,920	4,989	100.0	△ 44.1

[出所] 財務省「貿易統計(通関ベース)」から作成。

の株式10%(10億3,000万ランド)を取得し、取得済みの株式と合わせて43%の株式を保有するに至った。同月にはディスカバリー・ホールディングスが、中国の平安保険の株式24.99%(9億ランド)を取得し、同社が持つ中国市場の販売網やインフラ、ブランドを利用できる体制を築いた。

近年、南アフリカ企業はアフリカ諸国への活発な投資をみせているが、2009年にもその傾向がみられた。1月にテルコムがナイジェリアの民間通信オペレーターのマルチ・リンクス・コミュニケーションの株式25%(13億2,800万ランド)を追加取得し、2007年に取得した株式75%と合わせて完全買収した。10月にはアングロゴールド・アシャンティが、英国のランドゴールド・リソースと共同で、コンゴ(旧ザイール)のモト・ゴールドプロジェクトの権益70%を保有するモト・ゴールドマイنزの全発行株式(39億9,400万ランド)を取得した上、11月にモト・ゴールドプロジェクトの権益20%(8億9,000万ランド)をコンゴ(旧ザイール)政府より追加取得した。なお、アングロゴールド・アシャンティは、1月に豪の金鉱山ボッディントンの株式33.33%(103億2,900万ランド)を米ニューモントに売却して投資を引き上げている。

2008年末の対外直接投資残高は4,631億4,300万ランド(前年比3.2%増)であり、地域別では英国、ルクセンブルクなどの欧州諸国(2,536億8,900万ランド、8.2%減)が半分以上のシェアを占めた。増加基調にあるアフリカ諸国(1,008億9,200万ランド、19.6%増)は初めて1,000億ランドを突破した。

■ 対日貿易、経済低迷の影響で輸出入とも不振

日本の通関統計によると、2009年の南アフリカへの輸出は前年比43.2%減の26億1,300万ドル、輸入は44.1%減の49億8,900万ドルで、輸出入とも大幅に減少

した。

日本からの輸出では、全体の約半分を占める輸送機器が44.7%減となった。乗用車(34.1%減)では、特に排気量1000~1500ccクラス(ガソリンエンジン)が60.3%減と激減した。また、貨物自動車(55.2%減)は5トン超20トン以下(ディーゼルエンジン)が43.7%減となるなど半減した。全体の約4分の1を占める一般機械(50.6%減)では、主要品目の車両用ガソリンエンジン1000cc超(40.5%減)、メカニカル・ショベル等(84.8%減)が大幅に減少した。

南アフリカからの輸入をみると、全体の半分以上を構成する非鉄金属が、プラチナ(36.8%減)やロジウム(72.3%減)の減少に伴い47.5%減となった。全体の約4分の1を占める金属原料も鉄鉱(34.2%減)やマンガン鉱(31.3%減)の減少により43.0%減となった。全体の5.5%を構成する輸送機器は53.8%減となった。乗用車は、BMW3シリーズなどを中心とする排気量1500~3000ccクラス(ガソリンエンジン)が41.4%減、フォルクスワーゲンのゴルフを中心とする排気量1000~1500ccクラス(同)が68.7%減であった。

日本の財務省統計によれば、2009年の南アフリカへの対外直接投資額(国際収支ベース、ネット、フロー)は137億円であった。分野別では輸送機器(38億円)などの製造業で64億円、卸売・小売業(19億円)など非製造業で73億円となった。大型の投資案件はなかったものの、進出事例としては2009年4月に阪和興業が支店を、5月に三菱重工業が駐在員事務所をそれぞれ開設した。7月には、川崎汽船が現地代理店との共同出資による海運代理店を設立。同月、美容器具の製造・販売会社モガ・ブルックは現地の製造元を買収して新会社を設立(資本金9,800万円)した。また8月には、セキュリティ機器の製造などを手掛けるTOAが、TOA南アフリカ販社を設立(資本金6,300万円)した。